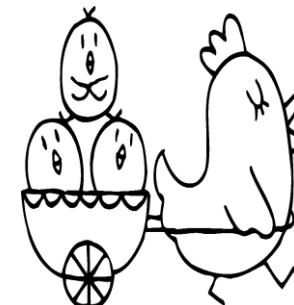


# ひよこだより

草笛学園 2025年 6月号



木々の葉が青々と茂り、夏の気配を感じるようになりましたね。汗ばむほど暑い日もあり、こまめに水分を取りながら、体調管理にはしっかり気を付けていきましょう！もうすぐ梅雨の時期になり、じめじめとした日々が続くと思いますが、梅雨ならではのアジサイや、カタツムリなどを見つけて、親子で楽しみながら梅雨を乗り越えていけたらいいですね。

## ◎何のための身辺自立か

子どもを育てるものにとっての身辺自立は、子どもがこれから社会生活において不自由することのないように、将来のために力をつけてあげることです。しかし、子どもは自分が将来不自由しないように、今、お片付けの力をつけておこう、パンツをはけるようになっておこうとは、絶対に考えていないはずです。この子らにとっては、今しかないはずです。

～省略～

身辺自立の力を、生活技術を身に付けていくこととしてだけ大人がとらえていると、どうしても子どもの心のなかに入って達成感を共感していくことができません。ときにはきびしく対応してしまったり、子どものがんばりを、まだどうずではないとして、認めてあげられないことがあります。子どもと同じ心のレベルで生活を考えることもたいせつです。

## ◎自分で決めたい心

心のなかに対ができると、対の一方に自分の意図を置き、他方に相手の意図を置くようになります。つまり、心のなかで自分の意図と相手の意図を並べてとらえることができるようになりました。そして、相手の意図にたいして、いっそう自分の意図を強く主張するようになります。自分の意図が相手に受け入れられないときには、「ただこね」というからだで表現する「ことばの前のことば」を使って、自己主張することでしょう。しかし、たいせつなことは、自分の意図を通そうとするだけではないということです。相手の意図を受け入れていかなければならないという思いはあるのです。だから、「ダメって言ったら、ダメなの！」



と、おとなが自分の意図を通そうとすれば、子どもはいっそう強く自己主張するでしょうが、子どもには必ず立ち直りのきっかけを探す姿がみられるようになるはずです。その自分からの立ち直りを見守り、「それじゃあ、いっしょにお散歩に行こうか」などと立ち直りのきっかけを与えてあげる役割をおとなが果たせるなら、子どももいつまでも「ただこね」にこだわることはないはずです。

参考文献：『発達の扉・上』 著：白石正久

※個別相談も行っています。職員とゆっくり話がしたい、子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

## 次回のひよこ教室は…

ひよこ教室①…7月5日（土） 9：20～11：15

→みずあそびをします

◎持つて来るもの…・タオル・濡れてもよい服（水あそび紙/パンツ）

・着替え・お茶

ひよこ教室②…7月19日（土） 9：20～11：15

→みずあそびをします

◎持つて来るもの…・タオル・濡れてもよい服（水あそび紙/パンツ）

・着替え・お茶

★保護者の方も動きやすい服装でお願いします♪（水がかかるかもしれません）

## 『参加される皆様へ』～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。（おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため）製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡します
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えてください）
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください。
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください